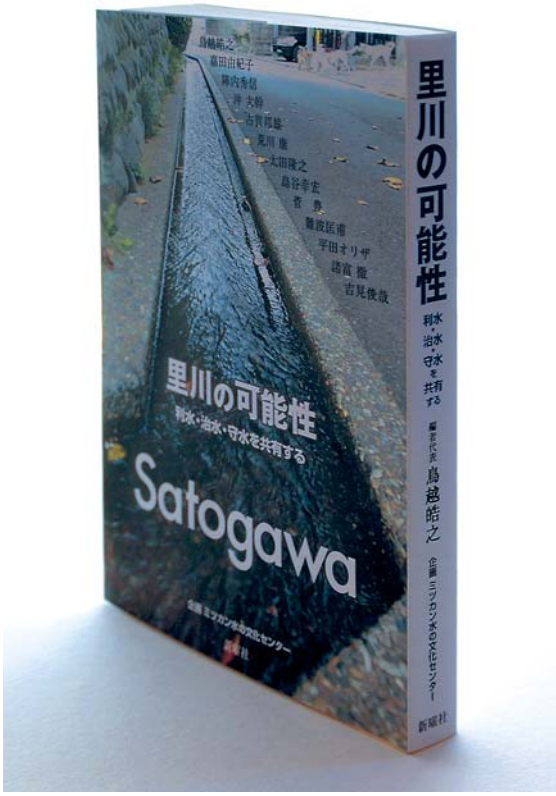
『里川の可能性』
出版のお知らせ



ミツカン水の文化センター企画、鳥越皓之・嘉田由紀子・陣内秀信・沖大幹　編による『里川の可能性』が新曜社より出版されました（税込￥2,310）。目次は以下の通りです。
是非、ご高覧ください。

『里川の可能性』利水・治水・守水を共有する

序　いまなぜ里川なのか　鳥越皓之

第１章　里川の意味と可能性　利用する者の立場から
荒川康＋鳥越皓之

第２章　里川と異質性社会　あらそう人びと、つながる人びと
菅　豊

第３章　里川への経済学的アプローチ　矢作川の保全活動から
太田隆之＋諸富 徹

対　談　他者との対話から生まれる川の物語
平田オリザ×嘉田由紀子

第４章　半自然公物としての里川　千年持続する河川技術から考える
沖 大幹

対　談　川への思い入れが拡げる新たな公　島谷幸宏×沖 大幹

第５章　流れから見たエコシティ　難波匡甫＋陣内秀信

対　談　「まち川」が多様な人びとを結びつける
吉見俊哉×陣内秀信

第６章　書誌「里川」　古賀邦雄

終　章　里川を求める思想　川とつきあいたい理由　鳥越皓之

里川宣言　利水・治水・守水の共有　ミツカン水の文化センター
里川プロジェクトチームの研究テーマ
わたしの里川写真
里川を考えるためのブックガイド50

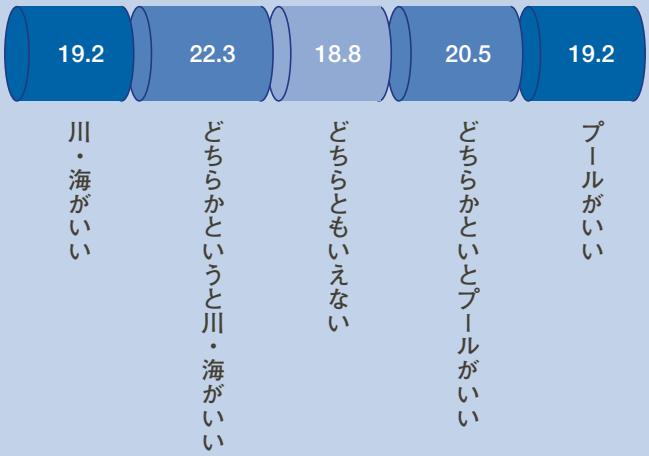
第12回「水にかかわる生活意識調査（2006年）」

「都会っ子はプール派」
新聞はどこにニュース性を感じるか

当センターでは、毎年６月に「水にかかわる生活意識調査」を東京、名古屋、大阪の約620名を対象に実施し、７月に結果を公表しています。これまでの10年間の調査結果はセンターホームページでご覧いただくことができます。ここでは、最新の調査結果から、注目された項目についてご紹介いたします。

Ｑ　あなたが泳ぐとしたら
「清潔な水のプール」と「自然の川・海」のどちらがいいですか。

１.「清潔な水のプール」のほうがいい。
２. どちらかというと清潔な水のプール。
３. どちらともいえない。
４. どちらかというと「自然の川・海」
５.「自然の川・海」のほうがいい。



自然の中で泳いだことのない子供が過半数に達する中、実際に泳ぐとしたら衛生的な「プール」と、自然の「川・海」どちらが好まれるのか。自然派（「川・海がいい」、「どちらかというと川・海がいい」）が41.５％、プール派（「プールがいい」「どちらかといとプールがいい」）が39.７％と、両者が拮抗している結果が出ました。

『水にかかわる生活意識調査』は32の主要設問からなっていますが、結果が７月20日に公表されると、新聞各紙がもっとも注目したのがこの設問でした。

見出しは「現代っ子はプール派？－川や海で６割泳がず」

今年の夏は、海や、安全が確保されているはずのプールで子供の事故が相次ぎ、社会的問題として意識されるようになったことも注目原因の一つだったようです。

この設問の意図は、泳ぐ場面で人はどの程度「衛生感」を気にするかを調べることにありました。ところが、いざ結果が公表されると、「水遊びの場で子供が身を守れなくなっている」という新聞が設定した文脈で引用されることが多く、「自然の水との接触機会が少ない」ことにニュース性が与えられたことがわかります。

■水の文化24号予告

特集「舟運の流通史」（仮）

舟運は、河川と海をつなぐ物流ネットワークであるとともに、人々の商い関係を形作ってきました。港町が最先端の情報拠点だった時代もありましたし、今あらたな交通モードとして注目されている地もあります。人は舟運に何を求めてきたのでしょうか。

水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合せ欄をご利用ください

http://www.mizu.gr.jp/

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

編集後記

◆公園、あらためて見ると、「公」の字が人々との距離を遠くしている感がある。やはり、芝生に入るベカラズの看板があったり、美的感覚の欠落した頼りないフェンスがあったり、規則・規律に縛られた「公共施設」を思ってしまう。使う側によってつくられていく「公園」があってもよいと思う。（新）

◆今年の夏はとても暑く、時折見かける、公園の噴水で遊ぶ子どもたちがとても羨ましかった。私が子どもの頃遊んだ公園には噴水なんて立派なものはなかったけれど、水飲み場の水を噴水に見立てて遊んだおぼえがある。いつの時代も、子どもの遊びに水は欠かせない。（百）

◆「コウエン行かない？」と聞かれて、「講演」「公演」それとも「後援」？ そういえば、全然、公園には行っていない。それは日本での話だ。NYに行けばセントラルパークには必ず行くし、グエル公園も大好きだ。日本の公園に何かを求めて行くことを最近していないだけなのだ。子供の頃はラジオ体操を、高校時代は友人との長話で駅裏の公園によく行ったものだ。久しぶりに公園に行ってみよう。（ゆ）

◆小学生になったら近くの街区公園など見向きもしなくなった息子が、泥田で遊ぶと目を輝かしている。一方、その父親は、川床でせせらぎの音を聴きながらほろ酔い加減。これまたイイ気分だ。なぜかはわからないが、遊興と水は相性がよい。（中）

◆うだるような暑さの中、嬉々として水と戯れる子どもたちに数多く出会った。水が生き物にとって根源的な存在だということが、理屈ではなく迫ってくる風景にだ。子どもに帰りたい！と心から願う瞬間。夏の水辺取材には、少なくともゴムゾーリが必需品だ。（賀）

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第24号

ホームページアドレス
http: //www.mizu.gr.jp/

※ 禁無断転載複写

発行日　2006年（平成18年）10月

企画協力　沖 大幹　東京大学生産技術研究所助教授
古賀邦雄　水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信　法政大学教授
鳥越皓之　早稲田大学教授

編集　秋山道雄　新美敏之　百瀬友美　小林夕夏　辻美代子
中庭光彦　緒方大輔　於保実佐子　賀川一枝　賀川督明

発行　ミツカン水の文化センター
〒104 - 0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル9F
株式会社ミツカングループ本社　社会・文化活動センター内
Tel. 03 (3555) 2607　Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ　ミツカン水の文化センター 事務局
〒143 - 0016 東京都大田区大森北 2 ー2 ー10・4F
Tel. 03 (5762) 0244　Fax. 03 (5762) 0246

PRINTED ON RECYCLABLE PAPER.